



会からのお知らせ

○ 7月度定例役員会

日時 7月5日(土) 13:00～14:30
場所 スポーツセンター2階大会議室
役員会の前にニュース封入作業があります。
会員の皆様はどなたでも参加できます。是非ご参加下さい。

○ 第58回雑学講座

日時： 7月5日(土) 15:00～16:30

場所： スポーツセンター2階大会議室

講師： 奥山康治氏(早稲田大学名誉教授・当会会員)

演題： 「イギリス民謡と日本」

奥山氏は当会会員。昭和41年早稲田大学大学院文学研究科博士課程を修了、法学部で英語の教授として多くの学生を育てられました。

英文学が専門で、ジョージ・オーウェル研究の第一人者ですが、今回は日本人にもなじみ深いイギリス民謡「グリーンスリーブス」「ロモンド湖」を中心に、英語原語と日本語訳詩とを、BBC製作のビデオを見ながら楽しく解説していただきます。

☆ 雑学講座は一般の方にも開放していますが、何よりも会員の方々にお聞きいただきたい。最近会員の参加が少ない(前回は37名中会員は19名)ので、今後多くの皆様の参加をお願いします。

○ 7月度お誕生会(担当幹事 南湖 TEL 390-2287)

日時： 7月5日(土) 17:00～19:00

場所： 割烹「丸藤」久米川駅南口から徒歩1分

電話042-395-5646

会費： 3,000円(記念品含む)

* 7月度お誕生の方々(敬称略 17名)

芦田 均・小野浩一・奥村幾正・川合宏幸・北野二郎・紅松喬・小出孝子・幸田瑞雄・高橋一彦・高部素行・高鷺近・田邊正史・富塚哲夫・鍋島高明・松永常尚・三宅良太・横尾正宏

・ ご出席希望、また、誕生月該当者で、上記されていない方、担当幹事まで連絡下さい。

○ 他稲門会等出席

調布稲門会総会 5月17日(土) 風間副会長・小亀事務局長出席

武蔵野稲門会総会 6月 7日(土) 額田幹事・芦田幹事出席

国分寺稲門会総会 6月21日(土) 三宅会長・小野幹事出席

三多摩支部会長会 6月17日(火) 三宅会長・小亀事務局長出席

○ 会員消息

安田忠治さん(S37教育)は春の叙勲で、永年にわたる教育功勞により瑞宝双光賞を受賞されました。安田さんは東京都教育庁指導主事・国立高校校長をなさったあと、早稲田大学客員教授(後に非常勤講師)として学生の指導に当たられました。(現在は日本大学非常勤講師)

《安田さんのお話》

この度はお陰をもちまして5月12日国立劇場にて勲記・勲章の伝達を受け、引き続き皇居に参内して、天皇陛下のご拝謁を賜り、誠に感激の極みでございます。これも偏に早稲田に学び、その後大学との関わりや稲門会の兄姉氏との交誼等で榮譽に浴せましたこと心から感謝申し上げます。

○稲門会の19年度会費納入の進捗状況

5月度に年度会費を納入いただきました会員は以下の方々です。(敬称略)

なお、未納入の方には6月ニュースに早期納入のお願いを封入しています。

成田豊太、夏山一彦、森川節子、森川 進 以上4名 会計担当 岡田

映画 ラストゲーム 最後の早慶戦

8月 Roadshow



5月19日大隈講堂で最後の早慶戦の試写会が行われた。この映画はご存じの方も多いと思いますが昭和18年太平洋戦争の戦況も厳しく六大学野球は中止され、学生に対する徴兵猶予も停止され、選手達はバットを捨て銃をとらなければならなかった。このような状況の中で、慶応義塾の塾長小泉信三は早稲田野球部顧問の飛田穂州に「早慶戦」を申し込む。

二度と帰れないかもしれない若者達に生きた証を残してやりたい——小泉の切なる願いを飛田も喜んで受けとめるが、早稲田大学の田中総長は頑として拒絶する。飛田の強行突破で、遂に10月16日戸塚球場で早慶戦が行われる。試合終了後早稲田の学生が「若き血」を慶応の学生が「都の西北」を歌いお互いの健闘を讃えあった。そして10月21日神宮競技場でふりしきる雨の中を出陣学徒の壮行会が行われた。映画終了後、神山監督はじめ出演者が出席し、シンポジウムが行われた。森元総理もお見えになり感想を述べられた。私もハンカチを濡らしながらこの映画を観て、65年前の感動の実話を、多くの若者に観て貰いたいと思った。(小亀輝雄 記)

早稲田大学初の付属中学校設置

早稲田大学は上石神井の早稲田大学高等学院の敷地内に、本学として初めてとなる中学校(名称未定)を2010年4月に設置する方針を固めた。国際化、情報化そして少子高齢化が進む昨今において、これからの時代の社会的付託に応え、中等教育を担います。

これにより、後期中等教育を担ってきた高等学院と連携しながら、早稲田大学としての中等教育と高等教育の一貫性を強化、確立していきます。

入学定員 中学校 1学年 計120人(収容定員360人)

男子校：1クラス定員は30人を予定

高等学院(2010年定員変更後) 1学年 計480人(収容定員1440人)

5月度「お誕生会」報告

HAPPY BIRTHDAY

担当幹事：南湖修一 390-2287

誕生月該当者17名中6名、雑学講座の講師 小竹直隆氏及び役員等で計19名の参加を得て、17時10分頃に開始した。三宅会長から花言葉「カーネーション」や汀女の句など5月にちなんでのお話を交えたお祝いの言葉、次いで平均寿命の話や心からのお祝いの言葉を添えて風間副会長の乾杯の音頭。しばらく全員のどを潤してからお誕生該当者へお祝いの言葉と一緒に三宅会長が手ずから記念品を一人一人に贈呈した。

ご出席の、紅一点、滝川桜子さんは「66歳(女性に失礼!)」。高校生に週一回、研究会その他で「組織」に係わっている。「本質は変わらない」ので、年齢を意識しないで、できることを精一杯やって行きたい。」

ご存知、写真家の赤荻洋一さんは67歳。「鉄道が趣味。日本全国を回りきってしまい、最近はオランダへ。」スピードの違い、自分の国の歴史を大切にするなど、我国との違いを指摘された。

57歳の上原正行様。年齢を感じさせない若々しさで、一昨年は乗馬、昨年はパラグライダー、今年はカヌーに挑戦。医療関係の現役として頑張られている。

ゴルフでまだまだ飛距離を伸ばしている相馬信一さんは73歳。ゴルフの蘊蓄を披露。最近お読みになられた本から、年老いるゴルフは 1. 無理に飛距離を上げようとする 2. カートに乗る 3. 頭を使わない とのことです。ご参考に!

毎回ご出席の森本吏様は69歳。出版関連の仕事に充実感。大隈公の言う「"出会い"を重んじ、志あれば必ず成功する。」の信念のもと、「今後とも、地方の少子高齢化や我国農業の振興等に取り組めたら。さらに稲門会にも参加して行きたい」と。

64歳の吉田勝様。シチズンで時計は勿論、意外やパチンコ関連機器の(部品の)お仕事をされ、ゴルフ、テニスを趣味とされている。

午後6時20分頃、お誕生月該当で祝福を受けながらも自作自演?で記念写真の撮影を終了、和やかな懇談が続き、最後に、井原幹事の本場仕込み?の好リードで元気に校歌斉唱、応援で幕を閉じ、肌寒い、雨降る中を三々五々、散っていった。(芦田 記)

第57回東村山雑学講座報告



平成20年5月10日

ふるさと歴史館 視聴覚室

江戸城を再建しよう

— 魅力ある国づくりのシンボルとして —

NPO法人 江戸城再建を目指す会
理事長 小竹（おだけ）直隆

「大阪、名古屋にお城があるのに、何故東京にはないの？」という素朴な疑問を出発点にして、江戸城天守閣を再建しようとする動きが、民間の“草の根運動”として広がろうとしている。それが、私たちのNPO法人「江戸城再建を目指す会」です。

皇居東御苑の一角に、350年前1657年の明暦の大火で焼失し、その後ついに再建されることのなかった堂々たる台座が遺されています。そこに幻の江戸城天守閣を再建しよう・・・というのが私たちの運動です。

何故いま江戸城再建か。どんな目的で再建運動を立ち上げたのか、ですが、日本はいま先行き不透明で、このままでは日本は衰退の道を辿ると言われています。この国が何とか立ち直るきっかけをつくりたい。次代を担う若い人たちが将来に夢と希望、自信と誇りを持てる国にしていきたい・・・、それが私たちの運動の原点です。私たちは、江戸城天守閣の再建に当たって、次の三つの目的を使命（ミッション）として掲げています。

1. 世界に類を見ない日本の伝統と文化を、掛替えのない国の宝として後世に伝承する。
2. 魅力ある国づくり「観光立国」のシンボルとして、この偉大な日本ブランドを世界に発信する。
3. 260年間戦火を交えなかった江戸城を平和のシンボルとして、国際的な共生と交流の一大拠点にする。

言うまでもなく江戸城再建は壮大な夢です。一方、当会は何の政治的、資金的バックも持たない純粋な民間団体ですが、政官財どこからも声が上らない中で、私たちは止むに止まれぬ思いで立ち上がりました。それだけに今私たちは茨の道を歩いています。この運動に少しでも関心を持ち、支援しようという方々がおられましたら、是非下記にご連絡ください。様々な情報とご入会の為の書類をお届けします。皆様からのお便りをお待ちします。

NPO 江戸城再建を目指す会

事務局：〒101-0051 千代田区神田神保町2-20

ワカヤギビル402

電話：03-6423-1882 FAX：03-6423-1897



講師の小竹氏は昭和7年6月生れで76歳。JTB（元代表取締役専務）に40年勤務された後、平成9年から5年間東京観光財団に在職、その後2年間立大で教鞭を取られました。

今「江戸ブーム」と言われています。江戸は封建時代でありながら、人々は豊かさを感じていました。当時の絵から見ると、表情には健康的な幸せや満足感が感じられ、寺子屋では本当の「人作り」がなされていたことがうかがえます。

世界8大文明の中で、一つの国で一つの文化・文明を持つのは日本だけ（Sハンチントンの「文明の衝突」より）という誇りをもっていいのではないか。日本にきた外国人に日本の国自慢が出来る日本人が何人いるか。我が国は物作りでは大国と言われるまでになったが、何かが欠けている。小竹氏のこの運動に賭ける出発点は、このあたりにあった気がします。

「江戸城再建」が夢物語ではなく、一步でも二歩でも実現が具体化するよう、我々稲門会会員も応援しようではありませんか。（當間昭治 記）

同好会だより

当会会員の方は、いずれの同好会にも自由に参加できます。

旅行同好会

世話人 風間和夫

TEL 394-5279

小亀輝雄

394-6951

柏崎稲門会との交流の輪広がる

第5回の旅行会は5月15～16日に行われた。好天に恵まれ、事故もなく無事に終了することが出来た。寺泊岬温泉から日本海に沈む夕日は見事で感動の一瞬であった。

寺泊には柏崎稲門会の水野紀一会長他3人の皆さんが出席下さり、当稲門会から友情のペナントを贈呈するなど友好の輪を広げる事が出来た。また東村山稲門会設立の際ご尽力を頂いた当時市役所にお勤めだった水野要氏も参加頂き、旧交を暖めることが出来た。

参加者皆様のご協力に心から感謝致します。（詳細は芦田さんのエッセイをお読み下さい。）

日本海に沈む夕陽が柏崎と東村山を結び、大いに盛り上がる

去る5月15日(木)及び16日(金)、一泊二日。2日間とも快晴。スタートから素晴らしい旅を保証するかの様だった。バスは観光会社/井滝社長自らの楽しい観光案内を飽きることなく満喫、27名の稲門会ご一行様、寺泊のホテルを宿泊先とし、無事、17時頃に終了した。「楽しかった」の一語です。幹事の方々をはじめとする皆様、本当にお疲れ様でした。(コース及び参加者名は下記のとおりです。)



宴会は、宿泊先である新潟県寺泊野積「飛鳥」で、柏崎稲門会の水野会長をはじめとする4名の方々、東村山稲門会の設立にご尽力戴いた、粹人にして釣り名人・水野要さん(髭面と言い全体がヘミングウェイにそっくり)を迎え、東村山稲門会の27名、合計32名で、大いに盛り上がった。日本海に沈む夕日は絶品で、皆でしばらくの間、じっくり観賞してから、宴会に入り、一興を添えた形となった。

三宅会長から柏崎稲門会と富山から駆けつけた水野要さんへ来て戴いたことへのお礼を含めた挨拶の言葉、柏崎・水野会長から昨年度の災害に対しての見舞いに対しての御礼、粹人水野様のユーモアあふれる挨拶へ、そして、山下相談役の乾杯の音頭で、明るく口火が切られた。酔うほどに和やかにして楽しい時間が過ぎていった。2次会に、カラオケに行く者、幹事部屋で談論風発と、各人各様で、「早稲田」の時間があっという間に就寝に変わって行った。

見学した中では、特筆に価するのが、何と言っても「開山堂」です。現在、新潟県重要文化財指定だが、近い将来、国の重要文化財指定になる見込みとのこと。建築様式は鎌倉時代禅宗仏殿構造で安政四年(1857年)建立、目を見張らせるのは、石川雲長畢生の大作である向排及び堂内の彫刻である。「天井は三間四方全面に道元禅師猛虎調伏の状況を透し彫り」で「極彩色に塗り上げ」た見事なもので、その他どれをとっても素晴らしい。

また、弥彦神社を参拝後、638m高の国定公園弥彦山のパノラマタワーからの絶景は筆舌に尽くしがたい。遠くは佐渡、広がる新潟平野、きれいに区画された田んぼ…。

なお、ご厚志を下さった八木様、井垣様、岡田様、土橋様、三宅様、當摩(照)様、當間(昭)様、月森様。それに柏崎稲門会の水野会長様から参加者全員にお土産『銘酒 越の誉』を頂戴しました。本当にありがとうございました。

・コース

5月15日(木):

東村山駅[出発8:05]→所沢IC→藤岡JCT→小出IC→西福寺開山堂[参拝・見学]→魚沼市吉田[昼食]→長岡JCT→三条燕IC→地場産センター[見学]→寺泊岬温泉ホテル「飛鳥」宿泊[到着15:15]

5月16日(金):

ホテル「飛鳥」[出発9:00]→弥彦神社[参拝]→弥彦山山頂[展望台/見学]→寺泊[ショッピング/昼食]→中ノ島見附IC→長岡JCT→鶴ヶ島JCT→所沢IC→東村山駅[到着16:50頃]

参加者(順不同・敬称略)

赤荻洋一 芦田 均 井垣和太 江藤昌明 岡田一郎 幸田瑞雄 田口政澄 高橋正夫 高鷲 近
土橋雄次 當摩彰子 當間昭治夫人 内藤 慎 額田伊久夫 藤澤博恭 松永常尚 八木勝利
風間和夫 山下邦康 木谷肇 同夫人 長井 治 同夫人 三宅良太 同夫人 小亀輝雄 同夫人
水野 要 柏崎稲門会4名 合計32名

(芦田均 記)

★ 「柏崎稲門会会長水野紀一様」からの手紙 ★

拝啓、先日は楽しい会に出席させていただきましてありがとうございました。「都の西北」を思い切り歌い、心身共にスッキリ致しました

同行の三人もととても喜んでおりました。これを機会に末長いおつき合いが出来ますことを、心より望んでおります。本当にありがとうございました。またお会いする日を楽しみにしています。

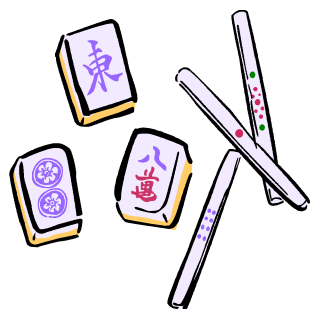
敬具

平成二十年五月二十日
三宅良太様

水野紀一

麻雀同好会

世話人 小野 智 TEL 391-9523
松永 常尚 332-5621



先にご案内の如く第43回大会を下記要領にて開催します。今回は本年度第2回大会。早いもので、今年も半年を過ぎようとしています。どうぞ残り半年の運勢(雀勢)も大吉でありますように祈願し、是非多数の皆様のご参加をお待ち致します。

記
日時: 6月22日(日)
集合: 12時10分(時間厳守)
開始: 12時30分
場所: マージャンM TEL 397-5228
本町4-12 アメニテイパレス B1F
会費: 7,000円 (成績結果は賞金制)
締め切り: 6月15日(日)

雀卓、人数の都合上是非お早めにご連絡下さい。

(松永記)

カラオケ同好会

世話人 芦田 均 TEL 393-7525
内藤 慎 393-5071



5月10日(土)午後7時過ぎにいつものとおり「カラオケランド ズー」で9名もの参加を得て、快調にスタートした。今回は、常連さんに加えてご多忙中の井原幹事、紅一点滝川さん(夫人)が参加されたこと、南湖さんがジェロの新曲を歌ったことなどが特筆されます。各人3~4曲づつ熱唱、熱気が感じられた。

なお、7月度は、下記のとおり、18日に恒例の「芽ぐみ」での開催となります。プロのマスターと一緒に楽しみませんか?10名程度を予定しています。幹事に早めにお申し込み下さい。なお、7月5日(土)は「お休み」です。

・5月度参加者名(敬称略 順不同)

井原徹・南湖修一・高鷲近・滝川正義・滝川桜子(夫人)・山下邦康・相馬信一・内藤慎・芦田均

今後の近予定は、

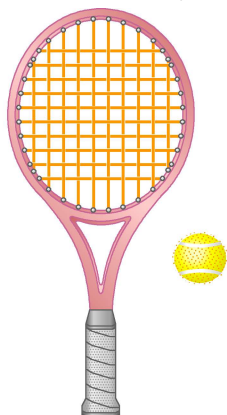
7月度 7月18日(金) 17時~20時 於「芽ぐみ」 新宿歌舞伎町1-2-13 新光ビルB1
電話 03-3207-3496

(7月5日(土)は「お休み」です。ご注意下さい。)

8月度 8月9日(土) 午後7時10分~ 於「カラオケランド ズー」

テニス同好会

世話人 當間 昭治 TEL 391-6023



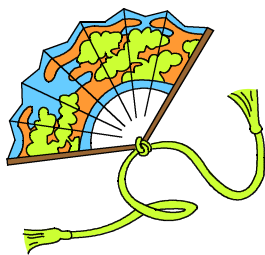
5月の例会は13日(火)久米川コートで実施予定でしたが、2日前の雨天でコートが使用できず、残念ながら中止となりました。6月は梅雨に入りますが何とか好天を期待したいものです。

6月と7月の予定をご案内します。

記
日時 6月 8日(日) 午前11時~午後1時
7月12日(土) 午前11時~午後1時
場所 両日とも久米川コート3

俳句同好会 (稲酔会)

世話人 井垣 和太 TEL 04-2924-2934



第38回「稲酔会」句会を下記の要領で開催致します。
記

開催日 : 平成20年6月14日(土)
時間 : 午後1時～午後4時半
場所 : 市民センター(市役所向かい) 第6会議室
(場所が例月と異なりますので、ご注意下さい。)
兼題 : 「扇」(扇子、白扇、紅扇、古扇、絵扇)

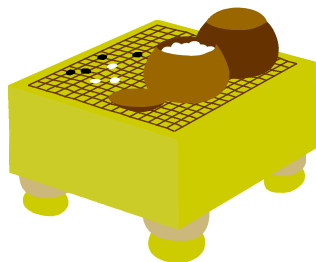
朗報です。風間和夫さんの句が、5月26日(月)読売新聞朝刊「俳壇」の宇多喜代子選に見事入選し掲載されました。稲酔会員としては、同じ読売の八木竜湖さんが度々入選、丸本北窓さんの朝日俳壇入選に続く快挙です。おめでとうございます。

校庭の蛇口上向く薄暑かな

和夫

おめでたついでですが、同じ26日に横浜で行われた俳句結社「海光」の200号記念大会で、稲雀作の稲門会寺泊旅行吟2句(俳壇掲載)が、最高点句賞(早苗田の・・・)と主宰選の天賞(五月晴れ・・・)を獲得致しました。(稲雀記)

囲碁同好会

世話人 福田 晃 TEL 394-0593
高 鷲 近 394-2336

○6月の例会は、下記の要領で開催します。囲碁のルールを少しでも知っている方は、ぜひご参加ください。

囲碁は、神様がつくったゲームともいわれ、奥行きの大変に深いものです。また、ぼけ防止にも最適といわれています。今月から始めましょう。

日時……平成20年6月21日(土)、午後1時

場所……市民センター別館、第6会議室

●6月7日(土)に、「オール早稲田囲碁大会」が、囲碁の殿堂「日本棋院」で開催されます。

これには参加チーム50、参加者280名ものつわものが腕を競います。わが東村山稲門会からも、鈴木・野村・堀田・福田・高鷲のほか、江藤さんが参加する予定です。

その結果については、来月号でご報告します。

ウォーキングの会

世話人 高橋 正夫 TEL 309-3407
土橋 雄次 393-5708

第8回ウォーキング記 (5月24日)

天気予報では昼ごろから雨とのことで、決行を迷ったほどだったのが、意外に薄日のさす快適な気候に恵まれて、用意していた雨具が役立たずに終わったことは幸いだった。青梅線の小作駅を10時過ぎにスタートして、最初に立ち寄った阿蘇神社は推古天皇の601年創建と伝えられる古社で、多摩川の高台に面した風雅な趣き。

そのあと、禅寺の一峰院の、珍しい鐘楼のある山門とその前に広がる根がらみ前水田(4月はチューリップ畑が見事)を経て、この

コースのランドマークである羽村堰を見学。その取水口は激しい水流が渦巻き、下流となる玉川上水や野火止用水の水量からは想像できないほどでした。また東村山浄水場は地元である東村山市には供給されておらずに杉並区のほうに直行していることもわかりました。帰路、地元の田村酒造場に立ち寄り、酒好きな幹事2名は早速、うたわれているまぼろしの名酒を仕入れて、福生駅へ。3時前に小川駅での解散となりました。次回は7月26日を予定しております。(場所検討中)

(高橋記)

参加者: 市川(久)、小林、高橋、土橋、三宅夫人、町田



眠るためのラジオをどうぞ

石塚 征雄（昭和40年政経）

3月の誕生会のパーティの席で、隣の先輩が「夜中に目が冴えちゃって、時間つぶしに困っちゃう。そんな時、ラジオの深夜便は助かるんだよな」と何気なく語られたことが耳に残った。

その席で、幹事さんにつかまってしまい、稲門会の会報に原稿を書くようにと指示され、恥ばかりかいてきた人生で、人様に見ていただく文章などは書きようもなく、悩んでいたせいか、夜中目をさましてしまい、「はて、何を書こうか」と眠れなくなってしまった。先輩の言葉を思い出し、枕もとのラジオのスイッチを入れるとまさしく「深夜便」で、昔懐かしいポールアンカの歌が流れていた。

男のアナウンサーの、淡々とした語り口調に原稿を書かねばならない悩みも忘れてウトウトしているうちに寝込んでしまった。

ちょうど昭和天皇の崩御のころ、放送はテレビが全盛期で、ラジオの存在が極めて薄くなっていた。そんな時、ラジオのあり方について考えなければならない立場になり、「ラジオは生き残れるか」というプロジェクトのメンバーになった。

聴取者の皆さんにどのような内容の放送がいいか伺った。意見やアンケート、インタビューの結果は、「一晩中浪花節を聞かしてくれ」、「人生についての話題を増やしてほしい」、「昔懐かしい演歌をたのむ」、「世界経済は夜中も動いている、世界中の株価情報を流すべきだ」など、意見は百花繚乱だった。

プロジェクトにはさまざまな部門からのスタッフが出て、議論百出、なかなかまとまらない。プロジェクトのトップが、かつて社会部の鬼デスクといわれたHさんという人だけに硬派の傾向が強くなるのではないかという懸念があった。

私は、途中で転勤してしまい、結論を出せないままプロジェクトを離れ、高みの見物になってしまった。

半年後の平成2年の4月からだったと思うが、夜中の11時から、ラジオ第一放送で「ラジオ深夜便」の放送が開始された。当初、一晩中の放送は電波塔の保守管理が難しい。夜中に聞いてくれる人はいない。夜は若者の時間だ・・・等々。「深夜便」なんてどこかの運送屋さん間違われるなど、賛否両論というより否定派のほうが多かったという。

深夜放送の基本コンセプトは、①対象者は高齢者をメインにする。②内容はスロー、ステディ、スマイル。いわゆる、ゆったりした口調で、射幸心をあおるような内容でなく、落ち着いた話題、何気なく聞いているうちに眠ってしまう。そんな放送をしようということになったという。

時はバブルの真っ盛り、時代の流れに全く反するような放送が開始された。

スタッフの思いでは、ほとんど聞かれないのではないかとという予想でスタートした放送だった。

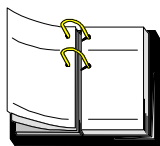
時間が経つにしたがって予測に反して、評判が評判を呼んで「深夜便」は快調にリスナーを増やしていった。

深夜には若者だけでなく高齢者という味方がいた。早寝早起きの方、生活時間にギャップのある方、不眠に悩まされる方、さまざまな方々が、スローでステディでスマイルな、やさしい情報を待っててくれたのだ。

Hさんという現役真只中の硬派の人物がなぜあえて高齢者にむけての放送を企てたのか。60代そこそこで他界してしまい、今となっては、その内心を聴くことはできないが、深夜帯には若者向けのバラエティ番組やテレビショッピングばかりで、高齢者層に向けての番組が少なかっただけに、あらためてその先見性と人々への優しさを感じさせてくれる。

いま、多くの方々が真夜中にラジオに耳を傾けてくれている。私もその仲間に入ってきているが、これまで、スロー、ステディ、スマイルという基本コンセプトとはまったく相反した生き方を生きてしまっていて、これからは変えられそうもないが、東村山稲門会の皆さんとのご交友の中でスローでスマイリングな人生を送りたいと願っている。

おしまいに、雑文のおわびとして、深夜放送の聞き方のアドバイスを・・・できたら30分か45分くらいの睡眠タイマー（時間がたつと自動的にスイッチが切れる機能）でお聞きになることをお勧めします。ラジオの音が鳴ったまま朝を迎えてしまうと、脳内神経がくたびれてしまいます。「眠らないため」でなく「眠るためのラジオ」にしてください。



今月の行事（6月）

7日（土） 6月度役員会
お誕生会
カラオケ同好会
テニス同好会
音楽同好会
俳句同好会
囲碁同好会
麻雀同好会

7月の予定

5日（土） 7月度役員会
雑学講座
お誕生会
テニス同好会
カラオケ同好会
ウオーキングの会



編集局だより

○次号の原稿締め切りは6月20日（金）です。よろしくお願いいたします。

俳壇

投句歓迎。当季雑詠2句。

ニュース原稿締め切り日の2日前までに、

はがき・メール・FAXの何れかで下記まで。

kigaki@rivo.mediatti.net 042-2924-2934 井垣

小満や新入社員群れ騒ぐ 高部 糸行
緑蔭のベンチ将棋はいま二人 内藤 慎
若葉燃ゆ参道沿いの水車小屋 丸本 北窓
紅白の躑躅両家で咲き競う
電線を消して若葉に浸りけり
点滴を受ける乙女の夏帽子 八木 竜湖
かにかくに風は吹きをり吹流 天に鮎竿引きのばす解禁前
雨上がり藪蚊が縦に通せんぼ 芦田 火吐四
夏の夜の鴉が騒ぐ深き森 井垣 稻雀
五月晴れ佐渡を舐^{もや}いて日本海 早苗田の平野まるごと大鏡 大野 恵峰
万緑の中にステンドグラス窓 照れながら草笛吹きし人のあり 菊田 一平
初夏や筒に竹筆・葦の筆 東京は内地紫海胆をむく 幸田 瑞雄
夕焼けを背に薄墨の佐渡島 早苗田へ弥彦山より明けの日矢

東村山稲門会新入会員募集について

会 長 三宅良太
事務局長 小亀輝雄

今年6月から、新入会員を増やすべく、会長、事務局の下部組織として東村山稲門会増強委員会（仮称：略称「新入会員増強会」）を設立に向けて検討する等、活動を開始します。

これは、早稲田130周年を迎える平成24年には、現在の動向から見て人数は勿論、老齢化などにより運営面でも、「支障」をきたすことが予想され、最低限『現状維持』でできるようにすることが狙いです。「新入会員増強会」を中心に、会員の一人一人が意識を持って、全員で当てる必要があります。ご協力のほど宜しくお願いいたします。